マキウラ鋼業　社員インタビュー

金鎮洙・取締役営業本部長と井寄裕也・執行役員生産本部長に聞く

金鎮洙（キム・ジンス）氏

1982年１月10日生まれ
2021年１月　入社　第２営業部長
2023年７月　取締役営業本部長

マキウラ鋼業（本社＝兵庫県姫路市、新浦州平社長）は7月1日付で人事異動を行い、営業を中心に携わってきた金鎮洙（キム・ジンス）氏（41）が取締役営業本部長、トラック運転手や営業で才を発揮し、直近では工場管理全般を任されてきた井寄裕也（いより・ゆうや）氏（39）が執行役員生産本部長にそれぞれ就任した。昨年7月に社長に就任した新浦社長は社員視点で物事を常に考えた上で、自身の社長就任から丸1年が経過したのを機に、年齢や社歴に関係なく、実力を持つ社員がそれに相応しいポストに就く「抜擢人事」に着手。その一方で、同社では営業や技術に秀でた数多くのベテラン社員が今もなお活躍しており、ベテランの持つ豊富な知識や経験と若手の武器とする発想力と行動力を巧みに融合させながら、社内体制の強化を図り、新たな時代へ向けた取り組みをすすめようとしている。その同社において、今後の若手の中心的な役割して期待される金鎮洙・取締役営業本部長と井寄裕也・執行役員生産本部長に抱負を伺った。

未経験者のハンデは一切なし

―それぞれの経歴についてお聞かせ下さい。

金　韓国で生まれ育ち、2000年に高校卒業してから5年間を職業軍人として勤めた後、05年に日本へ来日し、日本語学校に2年間通いながら、07年に大学へ入学した。大学卒業後は商社で勤務し、製鋼原料への配属となり、別の商社へ転職後も鉄スクラップ売買に携わり続け、16年には大阪へ転勤となり、姫路地区を担当することとなった。商社は数年スパンでの転勤となり、子供のことを考えると、必然的に単身赴任になってしまう。家族が離れ離れで生活するよりも、一緒に過ごすことが大切と考えるなかで、姫路は顔見知りのお客さんが多く、これまで災害も少ない地域だけに、ここに住みたいと考え、転職を考えるようになった。その中で、担当時代に懇意にしてくれただけでなく、商売も広げていただいていたマキウラ鋼業はシュレッダープラントで他社との差別化を図り、金属スクラップの様々な付加価値が創出できることに多くの魅力を感じ、当時の亨社長（現会長）と当時の専務であった現在の州平社長との相談の下、21年1月に入社した。

井寄　高校卒業後は自動車関係の職種に就き、前職では電気の材料を運搬する仕事に携わっていた。給与が安かったため、運送会社に転職しようと考え、大型トラックの運転免許を取得した。退職後はスキルを身に付けるべく、2ヶ月間でガス溶接、玉掛、大型特殊、けん引の免許を取得した後、トラック運転手の仕事を探していたところ、知り合いがマキウラ鋼業で働いていたこともあり、面接を受けさせてもらえることができ、まずは構内車で経験を積むという条件付きで入社をさせていただくことになった。入社後は先輩が横に乗車しながら、トラックの運転や仕事のイロハを丁寧に教えていただいた。入社して1年後には営業へ配属となったが、入社時と同様に優しく教えてもらうことができ、とにかく未経験や中途採用のハンデが一切ないのが印象的だった。

―お二人の業務について

井寄　工場内の責任者として、シュレッダープラントなどの各種設備を安定的に稼働させていくための取り組みや現場社員への教員など、工場全般に関連する業務に携わっている。それ以外にも、車輌の入れ替え時には車種選定をはじめ、高校生向けの採用も担当しており、地元の高校や自身の母校に足を運び、積極的にアプローチをかけている。様々な仕事に携わるのは大変だが、責任のある仕事を任せてもらえるのは非常にやり甲斐があり、これまで以上に毎日が充実できている。

金　営業として主に販売に携わっている。在庫を持たない商社がモノを動かそうとすれば、サプライヤーとの価格交渉が前提条件となるのに対して、マキウラ鋼業は常時在庫があり、地元メーカーへの直納窓口を持つため、欲しいと言われたタイミングで価格に関係なく、迅速に出荷できるのが大きな強みと考えていた。商社と異なり、自由に在庫を動かせるため、それを全面に押し出し、地元メーカーへの納入枠拡大など、自身の力を発揮することができている。また、若手スタッフと大学生向けの新卒採用も担当している。ウェブや合同での会社説明会にも参加し、4月に新卒を1名迎え入れることができた。来年にも新卒者が入社する予定となっている。

あらゆる部分において社員を大切にする会社

―マキウラ鋼業で働くことへの魅力をお聞かせ下さい

金　会長が社員の喜ぶ顔をとにかく見たがる人なので、それを間近に見てきた社長にもそのDNAがしっかりと受け継がれている。社長は就任時から社員の給与を引き上げたいと考え、昨年8月に給与をベースアップし、4月には一時金支給とベースアップも同時に行い、有言実行を果たしている。これは雇用確保だけでなく、今の社員を大切にしたいとの表れがあると感じた。

また、人事評価制度も曖昧なものではなく、自己評価、上司評価、会社評価の3段階となっており、適正かつ公平に評価されている。年齢に関係なく、頑張れば頑張るほど、昇給や昇格のスピードが早くなるため、どの社員にもやり甲斐を持てる会社だと思っている。

井寄　社長の会社を変えようとする意識が強く、社員教育にもしっかりと時間とお金をかけるだけでなく、社員を本当に大切にしてくれている。物価高騰を受け、1年を経ない間に2度の昇給や全社員への一時金支給など、様々なコストが上昇しているにもかかわらず、社員のために様々なことを取り入れてくれるのは大きな刺激となっている。未経験での入社から様々な経験をさせてもらっただけでなく、役職も引き上げてくれたことに非常に感謝している。これまで多くの会社を訪問したことを振り返っても、社員を大切にするマキウラ鋼業が最も魅力のある会社と思っており、会長や社長から受けた恩に報いるためにも、これから成長していく過程において、中心的な役割となれるように頑張りたい。

―社員教育に力を入れられている。

金　この1年を通じて社員教育に大変力を入れている。例えば、各事業部の社員教育用の資料を互いに共有するのは当然のこと、良いと思える部分は積極的に取り入れている。また、企業としてのレベルアップを図るためにも、営業と現場の意思疎通を図っていくことが必要と考え、現場スタッフが2週間に1度、営業と同行する形でメーカーを訪問し、スクラップヤードの見学や購買担当者と会話する取り組みを行っている。

社員教育には時間もかかるが、長い目で見て、社員の視野を広げさせようとするのが社長の狙いであり、この1年で社員の意識が大きく変わってきた。

井寄　営業で入社すれば、扱っている品物や金属スクラップ流通の仕組みを理解してもらうために、2ヶ月間は現場で研修を受けていただいている。新入社員には入社2ヶ月後に会社の雰囲気や仕事に対してのアンケートを実施し、それを基に、教育などで変えていかなければならない部分を変えていくことも心掛けている。

入社時が現場担当であっても、営業職への配置転換の希望があれば、それが可能であり、入社後の職種に縛られにくい自由度の高い会社だと思っている。

多くの人から魅力に映り社員が誇りを持てる会社へ

―安全面にも定評がある。

金　入社して現場で研修を受けていた際に、目の前で他のスタッフが足を滑らせ、機械に足を挟まれた。幸いにも大事には至らなかったが、事故を目の当たりにし、安全の大切さを再認識させられた。事故は未然に防げるとの考えの下、その日起きた出来事と自身の職業軍人歴を踏まえ、安全に関するレポートを作成した上で、全社員に周知するとともに、安全面に対する提案を挙げさせていただいた。現在、各事業所に無災害記録表の掲示をはじめ、他の事業所のスタッフが行き来しながら、工場内で事故が起こりそうなところがないかを確認する安全パトロールも定期的に取り入れている。他にも安全対策は数多く行っているが、140名からなる全社員の安全に関する意識が飛躍的に向上している。

井寄　工場には各種機械があり、日常的に様々なリスクが潜んでいる。何が起こるかわからない、些細な事象から事故に繋がりかねないのを言い続けることが大切と考えている。注意される人は不愉快かもしれないが、本人たちのために言っていることをいつか分かってもらえるだろうと考え、今後も気を緩めずに安全対策を強化していく。

―今後どのような会社にしていきたい。

井寄　社員の充実性を図っていき、入社したくても入社できないくらいの会社を目指したい。一部上場企業のような大手企業へ入社することが難しいように、マキウラ鋼業も地元の求職者から人気が高い企業として、募集をした際に、たくさんの人が応募してくると同時に、引取先や初めて会う人へ名刺を手渡した際に、『良い会社に勤めているなあ』と言われるような社員にとっても誇りを持てる会社づくりをすすめていきたい。

金　会食の際に、お店の人から七夕の短冊に願い事を書いてほしいと求められ、無意識に【仲間の幸せと安全】と書いた。社員に安全でいてほしいというのは当然の願いであり、現場の人たちは本当に暑い中や寒い中でも仕事してくれている。いくらリサイクル業は環境面に優れた仕事であっても、それだけでやり甲斐を持ってもらうことは大変難しい。頑張りに応えられるのはやはり給与面と会社にいる時間を心から楽しんでもらえることだと考えており、その両面を満たせる会社を目指している。姫路地区は大手メーカーも存在し、隣の岡山では東京製鉄の増産、JFEスチールの電炉新設など、これからも多くの需要が見込まれている。このニーズに対して、供給量と品質をしっかりと引き上げていき、利益を増大させていくことが、最終的に仲間のさらなる幸せと安全に繋がると考えているため、営業面をもっと強化し、会社の成長を図りたい。

井寄裕也（いより・ゆうや）氏

1984年１月４日生まれ
2010年10月　入社　車両部配属
2011年11月　営業部へ異動
2017年８月　中島事業所へ異動・営業部副部長に昇進
2020年８月　本社工場（生産部）副工場長（生産副部長）
2023年７月　執行役員生産本部長